

凍道をいく

ひとり うずくまり 耐え忍ぶ
遙か遠くまで 見渡せるほど 澄んだ空気の中
遠いのか 近いのか 深いのか 浅いのか
それさえも わからない
トンネルをぬけたとき
はじめて わかる
ひとりでは なかつたんだよと
ほのかな 光^{あかり}を頼りに 歩を進め
かすかな あたたかみを
手に入れるため